

『この子を残して』 永井隆著 916-N14
 第2次世界大戦中、長崎大学で放射線の研究をしていた永井博士は、研究による放射線の累積被曝と長崎原爆に投下された原爆による被曝によって、余命を短くしていた。母親を原爆で失い、やがて父親も幼い我が子を残してこの世に残り去って行く。今年も、またあの夏を迎える。行間からにじみ出る博士の愛を感じると、ほかして欲しい。
 H. k.

J. I.
 『そして誰もいなくなった』
 アカサ・クリスティー
 青木久恵訳
 933 C
 そろそろ夏休み。暑い夏を乗り切るために、ちょっと涼しくなりとうなサスペンス物語をプレゼントします。

『おれのおぼえん』 佐川光晴 913.6/5
 ある日突然、父親が会社で不祥事と起し逮捕! 東京の進学校から一転、変わり者の親戚のおぼえん率いる北海道の児童養護施設の居候となつた14歳の主人公。登場人物はみな、少なからず様々な重荷を負い、心に傷を抱えている。そんな中、おぼえんのパワー、人々の心の中に生きるエネルギーを感じ取り、悲壮感はなく、読んだ後は爽やかな気分!!
 M. T.

『トリツカレ男』 いいしんじ 913.6 I
 みんなから「トリツカレ男」と呼ばれているジジババの心のアンテナは他の人とちよと違う...。いつも何かにトリツカれています。その独特の感性に読者はクスクスと笑ってほうかも。でもその真、直ぐな心に不思議とたくさんの方が救われていく、あたたかい小説です。
 Y. k.

1~3年生向
読書案内 夏号
 2014.7.3
 メディアセンター発行

『まちがた、ていいじゃないか』 森毅 159.M
 この本は、私が中1の頃、国語の授業の冒頭で担当の先生が音読してくれていた本です。毎日少しずつ読み進めていくのは面白く、内容も中高生向けでとても親しみ易かったです。教員である著者の少年時代を振り返りつつ、思春期の悩みなどにアドバイスしてくれるので、休み中にぜひ読んでみてほしい一冊です。
 R. S.

『永遠の0』 百田尚樹著 913.6H
 日本人の多くの方が想いを馳せ、共に平和の祈りを捧げる8月6日、9日、15日...
 この小説は、歴史的事実を調べたうえで書かれています。「そうだったのか!」と初めて知ることが多く、第二次世界大戦の全体像、特攻隊の事、「生きる」という事を、『零戦』のパイロットの生き様を通して知り、考えることが出来ます。読み応えのある感動大作です! 映画もオススメ!
 M. S.

『愛のうさぎ』 松田理夫編 914.6 C62
 『中学生までに読みたい名著』全8巻の第1巻です。新聞広告で見つけて、言売りにしたくなった。思いをたして、メディアセンターに申し込みあり、何巻か読みました。この巻は、うさぎの後に2冊のイロイロ小説が。著者は、百田尚樹、寺山修司、村上春樹の文章が面白い。読み終わる時に『愛のうさぎ』は、人生もなにかにまた手と、中学生の心をつかむ。ぜひぜひ読んでほしい。ぜひぜひ読んでほしい。
 k. M.

『一瞬の風になれ』 913.6 S 1~3
 佐藤タケ子
 もうすぐ夏休み。夏休みにはぜひぜひ青春を感じて過ごしてほしいです。
 『一瞬の風になれ』は、熱い青春を感じられる作品です。全3巻。第1部 イチツイテムス どうぞ! きっと走り出したくなります。
 Y. S.

322.M
『科学』 - 中国の試験地獄 宮崎市定著
 期末が終わって喜びをかみしめている皆さんに
 読んでみてほしい一冊です。隋に始まり清に
 至るまで一千年以上続いた中国の官吏任用
 制度である科挙について具体的に書かれて
 います。受験生の様子に時には共感・涙し、
 時には驚愕・啞然とすること間違いなし!!
 S.H.

「授業・犀」(バット・オブ・イオネスコ)
 イオネスコ、ウージェヌ
 先日、礼拝で紹介した「イオネスコ」の
 代表作が収められている本です。
 不条理漫刺、イオネスコに興味を
 持たれた方は是非一度「声を出して」
 読んで下さい。
 k.S.

↑メディアセンターに所蔵のない本なので、公共図書館で借りてください。

914.6-H
旅を可る木 星野道夫 914.6-H92
 ヒグマの事故により、若くして亡くなった写真家の
 著者が、生前につづらした33篇のショートエッセイ。
 16才のアメリカ人旅、親友の死、運命的な
 出会いから始まったアラスカの広大な自然の暮らし...
 あなたがもし人生の岐路に立っていたら、きっと寄り
 添ってくれるような言葉が本の中にあるのではと
 目次が気になるタイトルの下から読んで下さい。
 I.S.

H.U.
『解夏』 だてまし著 913.6-8
 仏教的な考え方を生み出した作品だが、
 失明の恐怖に染み、青年教師のお話です。
 『アムシャートンに花束を』 ダニエル・キス 93A3-K
 高校生に読めば20年以上前の名作が、
 作者が最近亡くなったので、少し話題になるかも。
 『海嵐』 三浦俊子 913.6-M-1~3
 聖書の歴史と関連して、この本は三浦俊子に
 対して読むと面白い。

4~6年生向
読書案内 夏号
 2014.7.3
 メディアセンター発行

NHK 100分の名著ブックス 946
 『フランク 夜と霧』 諸富祥彦 F44
 フランクの『夜と霧』は、後判収容所での
 体験を記したありにも有名な本であるが、
 この本は、それ以上に心理学的にどうい
 う意味があるかを綴った本である。自分の人生に
 意味があるかどうかを考えている人には、「あ
 りたい」を待っている何かがある、というこ
 の本から教えられると思う。
 M.T.

『百姓たちの幕末維新』 瀧尚志著 210.5/W
 百姓が年貢を納める時、糶をどきどき運ぶの
 幕府領の百姓は、江戸にある幕府の蔵、
 まで案内に来たのです。出羽国村山郡の
 三右衛門の場合、様々なトラブルが発生し、
 江戸滞在期間は何と丸一年に!! 古書を
 江戸時代の百姓のイメージをガラッと変えてく
 庶民目線の歴史の面白さを味わえる一冊です。
 Y.M.

「関東大震災」 吉村昭著 936
 著者吉村は、いつものように事実を
 詳しく調べこの本を書いた。震災
 の混乱と自然災害の怖さ。それと
 同時に混乱時の人間のとる行動
 に恐怖心を持った。過去の事実から
 学んでおきたいことが満載の本である。
 H.k

わたしたちはまだ、その場所を知らない
 小池昌代
 詩人の書く小説
 っ、は、キリスト
 リリーがあるとい
 うより、細やか
 美しい言葉も重
 ねているよう
 つも気になります
 せひ小池さんの言
 葉の海にダイブ
 して見て下さい。
 台は学校、主人公
 は中学生女子と
 国語の先生です。